

## 令和3年度使用 中学校技術・家庭科（技術分野）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p>＜基礎的・基本的事項の理解や習得のための学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章において「目標」の明確化と、内容のポイントでもある「キーワード」が明記され、章内における基礎・基本の焦点化がなされている。</li> <li>○ 小学校での学習内容や、今後学ぶ他教科も含めた学習内容との接続が示され、学びの汎用性を高めている。</li> <li>○ 各章の内容が「基礎・基本の習得」「技術の工夫を読み取ろう」「問題を発見し、課題を設定しよう」という構成となり、生徒一人一人が基本的な知識・技能を活用しながら、主体的に「作品づくり」や「実習」に活かせる学習の流れとなっている。</li> <li>○ 写真やイラストが多く使われ資料による深化が図りやすい。また、「キャラクターによる説明」や「+安全」「+衛生」「Next」等による多様な情報により、個々の生徒の学びの深化や学習の発展が期待できる。</li> </ul> <p>＜技術の見方・考え方を生かした問題解決学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章の導入において「技術の見方・考え方」「技術の最適化」等を設け、本章における技術の見方・考え方のヒントを明示している。</li> <li>○ ガイダンス部分での「最適化の窓」により、技術の創意・創造のヒントや実践へ活かしていくためのポイントが工夫され設けられている。</li> <li>○ 全編において「問題を発見し、課題を設定しよう」が設けられ、生徒一人一人が課題を意識し主体的な学習に取り組むことができる。</li> <li>○ 問題解決例としての製作品が、社会的需要や生徒のニーズにマッチしたものとなっており、生徒が必要を感じ生活に結びつく実習を展開することができる。そのことにより生徒の制作意欲向上につなげることができる。</li> <li>○ 「テックラボ」の内容により、基本的な制作技能の習得と自らの創意を活かした、主体的な活動を展開することができる。</li> </ul>
教育図書	<p>＜基礎的・基本的事項の理解や習得のための学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各内容において、「めあて」と「キーワード」が章・節ごとに詳細に記載され、学びのポイントが一覧として把握できる。</li> <li>○ 各章の学習段階が①「つくって学ぼう」、②「じっくり学ぼう」、③「学びを深め生かそう」という、履修段階に即した形でまとめられ、学習進度や全体の見通しが把握しやすい構成である。</li> <li>○ 題材例がわかりやすく掲載され、実習を中心に総合的に問題解決を図っていく内容となっている。また、題材例の内容についても基本的な題材から発展的な題材まで選択肢が広く、生徒の習熟度により選択しながら学習できる提示となっている。</li> <li>○ 本文中の重要語句について、「拡大表示」＋「変色による表示」とわかりやすく示され、すべてにおいて資料との関連が明示されている。</li> <li>△ 専門性の高い題材例により問題解決の過程を図っているため、学習全体が製作に偏る傾向がある。</li> <li>△ 基礎・基本を大切に実社会に適応した題材例が多く、基本を捉えるのには大きな機能を発揮するが、発展性を伸長するヒントは少ない。</li> </ul>

	<p>＜技術の見方・考え方を生かした問題解決学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的に汎用性のある題材例を提示し、「ものづくり」を中心に問題解決を図る構成となっている。特に「情報の技術」においては、プログラミング言語や操作の例示が複数掲載され、問題解決学習への幅を広げている。</li> <li>○ 各学習内容の構成が3段階となり、1段階では「みつける」を対話的に引き出し、見方・考え方を深めている。2段階の「学ぶ」において製作を通し問題解決を図っている。3段階の「振り返り」により、考えを深化し、次の課題への意欲を高めている。実習を中心としたシンプルな流れである。また、各章の終末におけるまとめにおいて、技術のプラス・マイナス面について考え、持続可能な社会への意識づけを深めている。</li> <li>○ 「技」のコーナーの技術的エピソードにより、キャリア教育や社会での汎用性等を気づかせている。</li> <li>△ 生物育成の問題学習事例として、問題の発見から解決までの流れが記されていない。</li> </ul>
開隆堂	<p>＜基礎的・基本的事項の理解や習得のための学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ガイダンスにおいて、他教科との関連を明記し教科の横断的つながりを示している。また、各節において「学習の目標」を丁寧に表示し、学習内容の明確化を図っている。</li> <li>○ 各章において、ものの見方・考え方に「気づく」「はたらかせる」「定着させる」という段階で構成され、技術科における基本的な学びのサイクルを踏襲している。</li> <li>○ 基礎的・基本的な知識・技能を重視した題材例が配置され、それぞれの題材の創意工夫の観点により、トレードオフと最適化の気づきに結びつく題材構成となっている。</li> <li>○ 「リンク」表示により、他の学習内容とのつながりを明示し、横のつながりや汎用性を高めている。また、本文中の関連資料においても基本的な事項に内容を絞り込み、ページ全体をシンプルな構成としている。</li> </ul> <p>＜技術の見方・考え方を生かした問題解決学習について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章とも、「基本的な知識・技能の習得」から始まり、「問題解決の手順」「技術による問題解決」「学習の振り返り」の構成としている。一連の過程を「問題解決の流れ」と示し、製作活動を通して問題を解決する基本を重視した流れとなっている。</li> <li>○ 実習例の題名が課題につながる題名となっており、生徒一人一人のニーズと様々な工夫等により、主体性を発揮できる実習例の提示となっている。また、「社会とのつながり」「評価・改善」等により、トレードオフや最適化につながる工夫が広く掲載されている。</li> <li>○ 実習例のPDCAサイクルが明確化され、技術科の基本的過程がシンプルに示されているため、基礎・基本の習得に大きく機能する。</li> <li>○ 社会で活躍する人や企業等、様々な技術的エピソードを広く紹介し、技術への興味・関心やキャリア教育への接続を果たしている。</li> <li>△ 基礎・基本を大切にされた構成であるため、発展的な学習や生徒のニーズにあった学習を展開する上で、より時代にマッチした題材が必要である。</li> <li>△ Society5.0に触れられておらず、10年後を創造する技術へのイメージ構成が難しい。</li> </ul>